

漢字はゼロ歳のときからでも教えることができます。生後10か月から漢字教育を始めたという例も聞いています。

その子は田中庸介君というのですが、生後10か月の時、愚図って泣いているときに、神棚から下がっている「命名 田中庸介」という字を見て泣き止み、ジーと見ていたそうです。

お母さんが「これが庸ちゃんの名前よ。こっちが田中で、こっちが庸介」と読んでやったら、すっかり機嫌が直ったというのです。それ以後、庸介君が愚図ると、いつもそこへ連れて行くと泣き止んだそうです。

そんなことがあって、漢字教育を始めたら、一歳半の時には300字の漢字が読めるようになったといえます。この子は東大の医学部を出て医者になったと聞いています。

一歳半といえば、普通だったらカタコトしか言えない時期なのに、漢字が300字も読めるというのです。これは小学校二、三年生並みですから、にわかには信じられませんでした。しかし、実際に、この子どもに会って確かめてみると本当に漢字カードが読めたのです。

それだけではありません。田中家では何紙か新聞を購読していたのですが、「朝日新聞を持って来て」と言うと、いくつかの新聞の中からち

ゃんと朝日新聞を取って来ます。

田中庸介君のようなケースも他にもあることはあります。しかし、ゼロ歳から始めたほうがいいのかというと、個人差もあるので、一概には言えませんが、漢字教育を始めるのに生後10か月はまだ早すぎるかも知れません。言葉を盛んに発するようになった頃から始めるのがベストだと思います。